

○村上智行委員長 続いて、二十一世紀クラブの質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて十分です。阿部眞喜委員。

○阿部眞喜委員 二十一世紀クラブの阿部眞喜でございます。補正予算につきまして質問をさせていただきます。今回の六月補正予算は百八十億円ということで、物価高対策、中東情勢の影響に関する中小企業等への支援策が中心に提案されておりますが、ポイントを絞って質問させていただきます。

まずは、医師偏在対策支援事業についてですが、まず、こちらは令和六年一月の公表を見ると、対象地域は、宮城県は県南、大崎・栗原、石巻・登米・気仙沼——仙台以外になるかと思うのですが、現在対象となって検討されている地域があれば教えてくださいいただけますでしょうか。

○志賀慎治保健福祉部長 この事業は今後も一定の定住人口が見込まれるものの、必要な医師が確保できず、人口減少よりも医療機関の減少のスピードが速くなっていくような地域などを、重点医師偏在対策支援区域と設定した上で取組を進めるとなっております。現在我が県においては、御指摘のありました仙南、大崎・栗原、石巻・登米・気仙沼の三つの二次医療圏を選定しているところでございます。

○阿部眞喜委員 こちらのの中身を見ると、離島での入院医療の緊急対応や、離島の加算の評価を上げるというところもあるみたいですが、宮城県には離島にそういう入院施設というものはないという認識で合っていますか。確認をお願いします。

○志賀慎治保健福祉部長 離島でもいろいろな僻地診療所等も含めてありますので、この事業は圏域で対象になっているので、離島でも対象になるところとないところが出てきますけれども、基本的には二次医療圏単位で対象を受けて、いろいろな事業を展開していくことになっています。

○阿部眞喜委員 次に、医療機関業務効率化・職場環境改善支援事業について質問させていただきますが、こちらは医療機関に関するICT機器導入への支援となっておりますが、どのような機器が対象となるのか教えていただけますでしょうか。

○志賀慎治保健福祉部長 事業の定義が医療現場の業務負担軽減や労働時間の削減につながる機器やサービスといったことになってございまして、具体的には、例えばですが、職員間の情報共有のためのスマートフォン、業務用インカム、生成AIを活用した文書

自動作成支援サービス、薬剤・検体搬送ロボットなどが挙げられております。こうした例示したもの以外でも、業務効率化や勤務環境の改善につながるものであれば、定量的な成果を出せるものということで対象になり得るということになっていまして、個別具体的に一件一件対象を精査していくことになってございました。

○阿部眞喜委員 業務の効率化というところだと認識させていただきました。購入、レンタルやリースなどいろいろあると思うのですけれども、全て対象になるという認識で合っていますか。

○志賀慎治保健福祉部長 個別具体的に国が最終的に判断するとありますけれども、基本的にいろいろなものが幅広く対象になるものと考えてございます。

○阿部眞喜委員 なぜ聞いたかというところ、こちらの偏在対策のほうでも、オンライン診療とともに一緒に検討していくと国からも出ていまして、それに伴って質問させていただきたいのですが、先ほどの答弁を聞くと、オンライン診療のICT機能は含まれていないと——そういう機材は含まれないという認識でよろしいか確認で質問させていただきます。

○志賀慎治保健福祉部長 オンライン診療に対応するための機器やシステム等につきましても、導入によって医師や職員の業務負担軽減や労働時間の削減といった定量的な効果が見込まれる機器であれば対象となり得るといったことで考えてございます。単に診療機能の充実を図ったり、患者の利便性の向上につながるといった目的だけだと、この事業の趣旨である業務効率化・職場環境の改善につながないと判断される可能性もございしますが、先ほど申したように幅広く対象になり得るものと考えてございますので、個別判断ではございますけれども、可能性はあると考えてございます。

○阿部眞喜委員 先ほどの偏在対策のところでは、多分うちの地域は入っていないと思うのですが、オンライン診療の機械を私もこの間実際見せていただいて、眼科、歯科、皮膚科まで全部対象として見られる機材でして私もびっくりしたのですが、二秒遅れぐらいで心音も聞こえるというような状況で、一人も取り残さない宮城県にいくためには、なかなか病院に通うのは大変だという地域もありますし、医師偏在で若手の職員にそこに行ってくれと言っても、ボランティアではないので、それでビジネスが成り立つのか、ではどうするのだとなったときに、オンライン診療をもっと広めていくべきで

はないかと思うのですが、宮城県としての見解を教えてください。

○村井嘉浩知事 非常に医師が偏在しているということもあり、私もオンライン診療はやるべきだという思いを持っております。ただ、宮城県が思っても、要は医師会の皆さん、あるいは大学の先生方、そういった皆さんの御理解がないとできませんので、今いろいろ細かいことを調整しているところでございますが、方向としては、そちらの方向に向けて努力していきたいと思っております。

○阿部眞喜委員 薬のやり取りなど非常に大変な部分はあるみたいですが、郵便局と連携して、送って船に乗せてということをやっているような話も聞いておりましたので、なかなか高潮で船が出ないなど病院の先生が行けないというときのために、設備しておくとか離島の皆様も安心するのではないかなと思いますので、ぜひ宮城県としてもしっかりと進めていただけるように御要望させていただきたいと思います。次に移ります。

自然災害避難支援アプリ、地域ポイント等導入支援事業について御質問させていただきます。前段で皆様からいろいろとお話も出ておりましたので、省略させていただきますながら質問させていただきますが、県外に転出した皆様というのは把握できるものなのかどうかだけ、まず教えていただけますでしょうか。

○村井嘉浩知事 アンインストールしたり、ログオフではできません。それを持っていたら分からないのです。ですから、アカウントの削除というのが設定のところにあるのですが、アカウントの削除をしてもらわないと分からないです。どのアプリもみんな同じで、これを変えることはできないということだそうです。

○阿部眞喜委員 新しく来られる皆様にも導入してもらおうということが大切なことかと思っております、導入方法として、どのようにそういう方たちにアプローチしていくのかということと、市町村の窓口と一緒に連携することがよろしいのではないかと思います。いるのですが、方法があれば教えていただけますでしょうか。

○村井嘉浩知事 まさにそのとおりでございます、やはり市町村の窓口が一番分かりやすいということで、そこを活用させていただくように今調整しているところであります。

○阿部眞喜委員 ぜひ転入された皆様に速やかにダウンロードしてもらって、宮城県が

寄り添っているということを皆様に教えられるアプリなのではないかと思しますので、ぜひ市町村連携をお願いしたいと思います。

そこで、前回ふだん使いを目標とするために他社のポイント移行を提案させていただきまして、東北電力や日専連のポイント移行が可能になったということでございます。ありがとうございます。こちらの実績というのはどれぐらいあったのか教えていただけますでしょうか。

○梶村和秀企画部長 昨年十二月にポイント交換を開始いたしました。今年五月末時点の数字では、東北電力のよりそうeポイントにつきましては、合計一万五千五百八十六件、二三八四万六三四〇ポイントを発行しているところでございます。同じく日専連のスマイルポイントにつきましては、合計三千六百十九件、一七二八万八八〇ポイントを発行しているところでございます。今申し上げたとおり一定の実績が確認されていることから、今後とも他のポイント発行者と協議を行ってまいりたいと考えてございます。

○阿部眞喜委員 そんなに行っていると思わず、私の妻ぐらいかと思っていたのですが、防災れども安心しました。ありがとうございました。このポケットサインなのですが、防災だけではなくて、いろいろ見ると、生活インフラを宮城県がしっかりとお伝えするという県民生活アプリではないかと個人的にすごく感じておりまして、防災となかなかダウンロードしにくいですし、活用性がほぼほぼ何かあったときしか見いだせないと思っておりますので、いろいろなサービスを連動させていくことが大切かと思っております。

そこで最後に、この間もポイント移行はすばらしい質問だったと自分でも自画自賛しているのですが、その中でもう一つふだん使いできる提案をさせていただけたら思っています。毎日どうやったら開くかなと考えたときに、新聞をいつ見るかなと、新聞の項目で子供の頃に何を見ていたかなと思つたら、四コマ漫画だと思ひまして、宮城県の情報を四コマ漫画で伝えるようなものができると毎日開いて少し見るようなことができるのではないかと思うのですけれども、そういうポップな提案なのですが、知事、いかがでしょうか。

○村井嘉浩知事 AIを活用すると、そういうものをつくれるかもしれませんが、いろいろ検討してみたいと思います。